

すこやかちゃん



まなと 愛翔ちゃん(平成20年7月15日生)
両親＝川口純弥・理恵さん〔二〕
「パパ成人おめでとう！
スーツ、おそろいで着たよ。似合うでしょ。」



しづく 詩月ちゃん(平成19年5月26日生)
両親＝加瀬千尋・理香さん〔椎名内〕
「おじゃましてーす、
私2歳になりました」



こうへい 浩平ちゃん(平成20年5月4日生)
両親＝林 浩巳・恵理さん〔中谷里〕
「大きくなったらお父さんと
キャッチボールがしたいな。」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



あさひ浪漫紀行

—文化財を訪ねて—

③ 椿の海と中世の城



▲見広城跡

石垣と水堀に囲まれ、天守を頂く高層の城。これはおおむね戦国時代末以降のイメージです。中世でもそれ以前は、自然の地形を利用しつつ、台地斜面を削って平場をつくり、堀と土塁を巡らし、おそらく単層の施設(館や倉庫など)を築いていました。江戸時代に干拓されるまで広がっていた「椿の海」の周囲には、中世の城跡が点在します。そのうち、見広城跡(見広)に「河岸田」、鍋木城跡(鍋木)に「岸湖(河岸湖)」の地名が残っていることから、水上交通の要所であったことがうかがえます。城の痕跡は、曲輪を形成していたことを示すひな壇状の斜面、堀を巡らし空間を区画することで土地利用が使い分けられていたことを示す溝状のくぼみに見てとれます。廃城のときに、城として機能しないように土塁を崩して堀を埋め戻しているため、見落としがちです。

一方、低地では地形が平坦なため、要害堅固な城は築けませんでした。しかし、領土所有を示すとともに村を守り、さらに戦乱時の前線拠点ともなっていたでしょう。仲島城跡(袋・浅間神社)や江ヶ崎城跡(江ヶ崎・子安神社)はいずれも小規模ですが、椿の海から河川として流れ出ていた両岸に立地していることから、やはり交通の要所であったようです。

城は支配力・武力の象徴といえますが、戦乱に神経をとがらせ、後に廃城を余儀なくされたことを思うと、悲哀を物語っているようにも受け取れます。

なお、見学の際は季節がらへびに注意してください。
〔生涯学習課文化振興班〕

暮らしのカレンダー

- 1日(月) 水道週間(～7日(日))
人権擁護委員の日
- 4日(木) 歯の衛生週間(～10日(水))
- 7日(日) 旭市消防団ポンプ操法大会(8:00～ ふれあい広場)
- 14日(日) 旭市いいおか港・水産まつり2009
(午前10時～ 飯岡漁港)
- 15日(月) 県民の日
- 21日(日) 父の日

古紙配合100%再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

市内局番「60番台→50番台」「50番台→60番台」へかけるときは「0479」が必要です。

編集後記

広報を担当して3年目、昔はすべてカメラ任せで写真を撮っていた私も、最近ようやく、絞リやシャッタースピードなどを意識しながら、撮影するようになりました。しかし、思っていた以上に、カメラの設定に苦労しています。ちょっととした撮影にも長い時間が掛かってしまうこともしばしば。時間を掛けたからかといったら、いい写真が撮れているわけでもなく、写真の難しさを今更ながらに感じています。イメージどおりの写真なんて、いつになるやら・・・でも、写真は前より好きになった気がします。(ま)